

## 乳幼児が絵本にふれ合う場としての公共図書館の環境づくりに関する検討

林 真央

乳幼児期に親子で絵本にふれあうことは子どもの言語的発達や親子間の情緒的なふれあいを促進するなどの効果がある。しかし、近年、親子で絵本にふれあう場の1つである書店が減少しており、書店と図書館が同様の役割を持つ図書館の重要性が高まってきている。

そこで、本研究では優れた子どもの読書活動を行っている公共図書館における乳幼児とその保護者のための環境づくりの現状と課題を明らかにし、親子で利用しやすい環境づくりを検討することを目的として2つの調査を行った。

調査1では、子どもの読書活動に力を入れている図書館における、環境作りの現状と課題を質問紙調査によって検討した。対象を2016年～2018年に、子ども読書活動優秀実践図書館に選ばれた関東の公共図書館(28館)とし、乳幼児のための館内環境づくりの要素それぞれの実施の有無や、実施する上での工夫・課題などについて尋ね、実態調査と事例収集を行った。回答は26館から得られた(回収率92.9%)。分析の結果、設備はある程度整っていたが十分とは言えない状況であった。また、26館中、絵本の別置は9割以上、保護者コーナーの設置は約6割、子ども向けのルールは8割以上で実施されていた。特に実施率の低い保護者コーナーも、ほとんどの館が実施している絵本の別置に関しても、「スペース不足」という課題が最も多くあがった。備品に関しては、大型備品では机、椅子、マット、小型備品ではぬいぐるみ、布製絵本を設置している館が多かった。一方、消耗品は設置率が約5割と低く、コスト面での課題がみられた。これらの結果から、保護者向けコーナーの設置率が低い、コーナー設置にあたってのスペース不足、消耗品のコスト削減などが課題としてあげられた。イベントに関しては、全ての館でおはなし会が実施されていた。

調査2では、スペースや予算をあまり使わずに、他館でも参考にすることのできる親子で利用しやすい環境づくりについて検討するために、実際の図書館の環境づくりを現地調査した。対象は、調査1で協力を得られた図書館のうち、乳幼児のための館内環境づくりの要素を満たす環境づくりを行っており、さらに特徴的な取り組みがみられる1館とした。訪問した館においては、保護者向けのコーナーが、乳幼児向けコーナーの一角の書架の上や壁面に設置されていた。POPなどを活用することで、本を面出ししなくても、少ないスペースで目を引くコーナーづくりが行われていた。また、消耗品については裏紙をカットしたものと色鉛筆を設置し、コスト削減に努めていた。その他の特徴的な取り組みとして、乳幼児向けの小さい絵本の書架に定規を貼り、大きさが一目でわかるようにしていた。

調査1、調査2の結果、乳幼児向けの設備、絵本の別置、保護者向けのコーナー設置におけるスペース不足などの課題に対して、スペースや予算をあまり使わずに他館でも参考にすることができる工夫として、使用されていない別室を利用する、他のコーナーと併設しPOPやシールで差別化するなどがあげられる。今後はこの環境づくりの案を実施し、実践の効果を検討していくことが望まれる。

(指導教員 鈴木佳苗)